

### ●この小冊子にこめられた願い

この小冊子は中学受験について誰でも今すぐ読める内容とボリュームです。難しい内容は一切ありません。

誰が読んでもその内容を理解できます。その後実行に移して継続できる人はどれくらいいるのでしょうか。多くの人が情報を集めて、合格したいと考えます。そこから正しい方法を見つけ出し、あるいは考え出し持続して実践を続けるかが合格の分岐点になります。

この小冊子には中学受験に関する成功への秘策をちりばめてあります。しかも誰でも実践できる内容です。

中学受験実践研究会の多くの事例を通じて合格するための考え方やスキルについて、是非お勧めしたい内容を宝石のごとくちりばめて編集しました。

無駄なページや文章は一切ないはずです。

この冊子を読み終えたらあなたの中学受験に対する不安や不満の9割は消えているはずです。そしてこの冊子を通じていい仲間が欲しいと思うことでしょう。

そんな仲間に是非この冊子を差し上げてください。あなたとこの先の苦労と感激を共有したい方にこの冊子を配り、それをきっかけにして切磋琢磨できる仲間を作って欲しいと思います。

中学受験は情報交換も含めて孤独でやるよりいい仲間と一緒に走る方が感激も大きくなります。『一緒に合格しようよ』を合言葉にすばらしいあなたの受験体験物語を作っていただきたいと思います。

この冊子を読み終えるころに『行きたい学校へ行こう』『後悔しない受験をしよう』という私たちの考えがわかっていただけはずです。

30分もあれば読み終えることができる冊子です。しかし、どんな受験雑誌にも負けないようにと意気込みました。最後まで読んで今日からできることは今から実行に移してください。

そうすれば合格の半分は引き寄せたのも同然です。

### ●なぜ中学受験をするのですか？

素朴な疑問です。どうして中学受験をするのですか？いい大学に進学するため、勉強ができるから、親が勧めたから……。色々ある

でしょう。まったく否定しません。まず受けようとするのが大事です。それでいいと思います。巷の受験本には多々書かれていますが気にする必要はありません。

「受けよう、行こう」と思った日が吉日です。とにかく情報収集と学習を開始しましょう。これがすごく重要です。12歳の子供達に動機付けだの、目的だの大人がごちゃごちゃ言う必要もないと思います。

大人だって本当に目的を持って行動しているか怪しいのですから。とにかく中学受験をしたらその向こうにはもっとすごい、楽しい未知の世界が待っているのだと思うくらいでいいのです。

堅苦しい評論家もどきの精神論からはやく卒業しましょう。入り口は親の見栄だっていいではありませんか。それが将来子供の成長にプラスになるならばそれは結果的に正しい判断になるのです。

### ●まず何をすればいいのですか？

できることなら行きたい学校を選ぶことです。途中で変わってもいいです。早い時期に決まればなおよいでしょう。行きたい学校は当面

の目標です。目標ができると頑張る理由が見つかります。

これは嬉しいことです。ぼんやり、何となく学習するよりも目標があるほうがはるかに精神的にも張りが出てきます。

このときに今の成績が良い悪いと考えないことです。単純に行きたい学校をイメージします。偏差値の上位校が必ずしもお子様にとっていい学校ではありません。お子様自身が行きたいと感じる学校がお子様にとっていい学校なのです。

どうしても決まらないときは仲良しの友達と一緒に学校を受けることでもいいです。あるいは3つくらいの候補を選んでこの中のどれかに行きたいでもいいです。自由に発想して、夢を膨らませて学校を選びましょう。そのために学校へ出かけます。

説明会や学園祭。楽しいことがたくさんあります。刺激されます。やさしいお兄さんやお姉さんがたくさん待っています。家族で行きましょう。ご両親も感動するはずです。是非この学校に我が子を入れたいとか。

そして何か記念品を持ち帰ります。その学校の校章のマークが印刷

されたノートやTシャツ、学園祭のパンフレットなんでもいいです。とにかく記念品を持ち帰ります。ついでの写真も撮ってくるといいでしょう。最高の笑顔で。

先輩たちの中に将来の自分を投影するお子様もいるはずですよ。これもいいことです。どんどんイメージを膨らませることです。

その瞬間にもお子様はどんどんその学校に近づいています。つまり合格を引き寄せ始めているのです。

そう、学校めぐりはお子様に合格というすばらしい魔法をかける絶好の機会なのです。「ぼく、ここにきたいよ」、「わたし、ここを受けらるわ」といったら最高です。いい魔法がかかった証拠です。

これはものすごく大事です。これは本当にすばらしいことなのです。お子様が自分で自分の進路を選択しようとしている瞬間です。その学校へ行くことは親が決めたかもしれませんが。

でも選択したのはお子様です。その過程が大切です。

●中学受験は厳しいのですか？

中学受験の受験者数、入試倍率の数字だけ見ると厳しいといえます。でも心配しないように。心配していても何もいいことはおきません。なぜ心配になるのでしょうか。なぜ不安になるのでしょうか。

もうすこし質問します。日常生活で心配になる、不安になるときはどのようなときですか。たいていは将来のことですね。そして先が見えないから心配したり、不安になったりします。

同じことです。受験のことを良く知らないから心配や不安に襲われます。でも大丈夫です。この冊子を読み終えるころはあなたの悩みは消えているでしょう。そしてやるべきことが明確になっているはずで

ほとんどの学校で、入試倍率が公表されます。倍率が1より大きいということは、募集定員よりも受験者が多いことを示します。つまり誰かが不合格になるということです。これは紛れもない事実です。

逆算すると合格の確率をいかに高めるかが勝負になります。これは単に実力だけの問題でなく、どの学校を受けるか、どの科目で勝負す

るかなどの複雑な要因が絡んできます。実はここがミソなのです。

どこで勝負するか！これを決めるのが合格戦略の重要なポイントです。得意科目をさらに伸ばして勝負する。苦手科目を克服して勝負する。方法は色々ありますよね。塾講師や評論家も得意科目で勝負するか、苦手科目を克服して勝負するかどちらかを勧めることでしょう。

でもこのような浅はかな発想がそもそも間違いのもとです。この発想で勝負するから厳しい受験を強いられるのです。得意科目で勝負する、あるいは苦手科目を克服することは受験のテクニックです。でももっと大事なことがあるのです。

この謎解きもあとできちんと説明します。

### ●塾はどこまで活用すべきですか？

塾はあなたの味方です。しかし、活用方法を間違うと思わぬ敵になります。時間とお金の無駄遣いをさせられます。だから塾のプログラムに対して、それを見極めるだけの知識が必要です。

まず、言いなりにならないことです。疑問に感じたら疑問が解けるまで質問すること。遠慮は無用です。お子様の合格がかかっているのです。遠慮している場合ではありません。塾には多くの子供が来ています。小学校の同級生がいるかもしれません。彼らあるいは彼女らと競争しようなんて考えは持たないことです。ライバル視することも敵対心をもつこともやめましょう。

あなたはお子様の合格だけを考えていけばいいのです。他の事を考えることは得になりません。時間の無駄です。競争することも精神的に乱れを生じます。

塾はあなたのお子様の合格確率を高めるための手段の1つであると割り切ることです。温情も不要です。ひたすら合格するための力を磨く場所であると思ってください。過度の期待をしすぎてもいけません。講師はあなたのお子様だけを見ているわけではないのです。

だからこそ、少しでもお子様に関心をもってもらえるように知恵を使わなければいけません。

志望校の倍率がどうの、合格偏差値が上がりそうなどというくだらない情報収集もいけません。くだらない情報収集に時間を費やすことは愚かな行為です。

不要なことは塾に任せておけばいいことです。あなたは確実な情報だけをいくつか知っておくだけでいいでしょう。

志望校に狙いを定めたなら、あなたには志望校の情報だけが届くようになるはずですが不思議ですが必ずそうなります。余計な情報は目や耳に入らなくなります。はやくこのような状況をつくるようにしましょう。

今からでもできることはたくさんあります。

### ●それでも偏差値が心配です

そのお気持ちはよく理解できます。頭でわかっても目の前の偏差値や塾のクラス分けでさえならないようならすぐに現実にもどってしまいます。

いいですか、ちょっとやり方をかえて変わろうとすることを始めま

しょう。変わろうと行動を起こすことです。何もしなければ変化は起きません。

変化を起こすには行動が必要です。もちろん闇雲な行動ではいけません。勝つために行動を変えるのです。大きな変化はいりません。ちょっとしたことから始めます。

ちょっとした変化を起こさなければ大きな変化など起こせるはずがないからです。そう思いませんか。小さなことができないのに大きなことができることはほとんどないはずです。甲子園だって地区大会で優勝しないと参加できません。理屈は同じです。

### ●小さく、継続が重要

最初は小さいことで、しかも継続することが重要なポイントです。今まで1日1時間しか家庭学習をしなかった。でも変化を起こそうと1日6時間の家庭学習を始めた。結果1週間で息切れしてやめてしまった。

これではいけません。1日2時間でも受験日前日まで継続できるこ

とを始めるようにします。

些細なことでも継続するとそれは大きな力となります。小さな成功があつまり大きな成功を呼び込みます。情報を集める、自分が信じた方法を見つける、行動に移す、そして継続することです。ここまでできたなら、かなり合格が見えてくるでしょう。

### ●学校の授業とテストは大事にしよう

中学受験をしようとするお子様はおそらく小学校では優秀な児童のはずです。その優秀な子供ばかり集まるから厳しい競争になるのです。

ところであなたのお子様は学校のテストで満点を取れていますか。中学受験を成功に導くには学校のテストでほぼ満点を取ることが必須条件です。つまり小学校のテストが満足にできないなら本番では相当苦戦を強いられることとなります。

中学受験をするご家庭で小学校の勉強を馬鹿にする人もいますがこれは大きな間違いです。もし、塾の学習が進んでいるなら小学校の授業は復習と思って完璧に仕上げるように活用するといいいでしょう。

理科の実験は塾では絶対に体験できません。学校の授業を軽視することなく積極的にかかわって欲しいものです。必ず中学入試には実験の問題は出題されます。

『そんなこと知っているよ』そんな慢心が思わぬ失敗を運んできます。謙虚になり学校の授業を完璧に吸収しましょう。

### ●ノートの活用方法

ノートは合格への重要な武器になります。ここで注意して欲しいことがあります。それはきれいなノートを作ることが目的ではないということです。きれいなノートを作ることが目的になると、理解したことが忘れ去られるからです。

これでは実力は伸びません。

もう一つ。あとで読み返しても何が書いてあるのかわからないようなノートもいけません。字が上手い下手に関わらず読み返して自分が何を書いたのか、考えたかがわかるノートを作ります。

ノートの左側には必ず日付を入れます。いつやったのかがわかります。読み返したときに『6月はできなかったけど、9月にやったときは自力で解けている』とわかれば自分の理解度や実力の伸びがわかります。

問題を解いて解答を読む。正解ならOK、できなくても解き方や注意すべきポイントを赤で箇条書きにしてノートにメモしておきます。模試の前や本番前はその赤字の部分を重点的に読んで、解き方のポイントを把握すれば効率がいい学習ができます。

ノートは科目別に用意します。1冊のノートに4科目なんてだめですよ。こんなところでケチってはいけません。それから余白も十分に取ります。ぎっしり文字が埋まったノートもダメです。あとから読み返したり、書き込んだりする余白をとるようにしておきます。

もし、近くに合格した先輩がいたらノートを見せてもらうといいでしょう。成功した人のノートは思考が整理されていますからあとから読み返しても内容が理解できる構成になっているはずですよ。

### ●お子様が4年生なら

多くのお子様が4年生か5年生で受験勉強を始めます。特に上位校を受ける場合は4年生が多いようです。

4年生は偏差値など気にせず、受験学習はどのようなものかそして学習のリズムを掴むことに集中しましょう。並行して志望校を決めるための情報収集や学校めぐりをしておきます。6年生になると学校めぐりの余裕はありません。

塾との関係作りや、模試の活用方法などもこの時期に学んで起きたいところです。配られるテキストを全部やろうとしないで塾の授業をしっかりと消化することが大切です。

志望校がある程度絞り込んでいるなら迷わず志望校の過去問を集めましょう。1年でも余分にあるほうが有利です。1冊3000円前後で市販の過去問が出版されます。毎年6月から7月にかけて発売されます。また、塾に頼んでさらに古いものをコピーしてもらうこともいいでしょう。

塾には遠慮せずなんでも頼んでみることです。この時期はいろいろ動きまわってみましょう。

そうすると不思議なことが次々に起こるようになります。仮にあなたのお子様が灘中学を受けようと決めたとします。今まで灘中学の情報は意識していなかったはずです。

ところが意識をし始めると灘中学に関する情報が続々と目についたり、あなたのもとに寄ってくるはずです。実は灘中学の情報が急に増えたわけではありません。今まであなたが意識していないから情報が素通りしていたのです。しかし、意識し始めると急に情報が入ってくるのです。さらに灘中学を受けたいことを塾の先生が知ることで先生も意識して情報を提供してくれるようになります。

ありがたいことに塾の先生も『灘中学に受かるためには・・・』というような助言も提供してくれるでしょう。だから志望校の決定は早いほうがいいのです。

周囲が続々とあなたの応援団になってくれるはずです。この冊子を

通じて仲間になった父兄からも、特別な情報もたらされるでしょう。これは是非実行してみてください。

信じられないようなことも起きるかも知れません。こうしてお子様の合格への道を着々と作り始めることが合格への近道です。

いかがですか、少しは不安が消えてきたのではありませんか。むしろわくわくしてきた方もおられるかもしれません。悲壮感をもってやっではいけません。それでは福の神も逃げていきます。

実力だけで合格するお子様もいることでしょう。しかし、できるなら運や周囲の力をうまく巻き込んでいくほうがはるかにいい受験ができると思います。合格後もいい人間関係を作ることができるでしょう。

他の子供はライバルでなく、一緒に頑張る仲間です。大切にしましょう。お互いに情報を共有してお互いに感謝することです。自分だけよければいいという考えならば運は逃げていきます。

いい関係はもしかすると生涯にわたって交友を維持できます。将来は仕事でも大きな成果につながるかも知れません。中にはエリート意識むき出しの親もいるかも知れません。ならば近づかないことです。

周囲の協力や運を味方にできない人は、中学受験は上手くいってもおそらくいつかは大失敗するでしょう。

逆に周囲の協力や運を味方にできた人は、もし、中学受験で希望通りにならなくても長い人生、きっと大きな成功をおさめることができるはずです。

中学受験は貴重な体験です。同時に始まりの終わりにすぎません。6年後には大学受験、その後も就職試験や数々の試練がやってきます。死ぬまで順風満帆なんていう人生はありません。

結果がどうであろうと目標を決めて挑戦する姿勢が大切です。偏差値が55だから無難な受験をしよう、これも選択肢の一つです。でももう少し上を目指して挑戦することも中学受験を通じて体験して欲しいと思います。

中学受験に浪人はありません。仮にすべて不合格でも公立中学に行くチャンスがはじめから与えられています。だからこそ挑戦して欲しいと思います。

もし、失敗してもそれを恥じることはないと断言します。事実そこから多くを学び高校受験や大学受験で大成功を収めたお子様が数多くいます。逆に志望校に合格して、その後気が緩んでしまい大学受験では大きく遅れをとるお子様もいます。

長い人生です。短期的な思考や親の見栄などでお子様の真の可能性の芽を摘むようなことだけは避けるようにしましょう。

### ●お子様が5年生なら

受験までまだ1年以上の時間があります。模試の偏差値も気になる頃です。塾の授業もスピードが上がってきます。国語と算数に加えて理科社会の学習も少し本腰をいれてやり始める時期です。

特に男子校の理科は女子校の問題よりレベルが高いので、理科は少

し力を入れておくほうがいいです。望ましくは塾の授業をきちんと消化していくことが理想です。しかし、現実はずしもそうとは限りません。あなたは『どうしてうちの子供はこんな問題も理解できないの』と髪をかきむしりたくなることもあるかもしれません。

それはお子様の能力が原因ではありません。授業の教え方にも大いに問題があります。塾も多くの子供を相手にしていますからあなたのお子様には焦点をあてて授業をしてくれることはありません。

遅れをとらないように対策を講じなければいけません。先生に質問してその場で解決してくる、あるいは帰宅してしっかり復習しておく、市販の参考書を読んでみる、親がヒントを与えてみる・・・・・・・・方法がたくさんあります。心配は要りません。

重要なことはそのようなことが起きたときに放置しないことです。『ちゃんとやっておきなさい』と親が指示するだけが一番怖い現象です。そのまま放置されると取り返しがつかないところまでレベルが下がってしまう場合があるからです。

それさえ注意すればだれでも乗り切ることができます。5年生になると塾から配られるプリントの量も膨大になるでしょう。すべてをやることは無理かもしれません。

必ず予習しなさいと指示されたものを優先します。それ以外は余力がない限り手をつけないことです。

あれもこれも手をつけたけれど何も身につけていないという事態にならないためです。10のうち6しかやっていないけれども6はすべて完璧に理解している子供がはるかに実力を伸ばします。

逆に10 やったけれども身についたのは3だけ、これがよくありません。これでは本番を戦い抜くことができません。

消化不良を起こさないこと・・・・・・これが5年生の学習の最大の要諦です。同時に志望校が固まっているならばご両親は志望校の過去問分析をしておくことを強くお勧めします。

志望校の過去問分析については後ほど詳しく述べます。

### ●お子様が6年生なら

受験まで1年ありません。いよいよ自分たちの出番がきました。志望校は決まっているけれども偏差値がついていけない、誰もが体験するはずです。でも心配は無用です。特に5年生の模試の結果をよく分析しておきましょう。

あなたのお子様は何が得意で何が苦手かです。科目別の得意と不得意、次に科目の中の分野別の得意と不得意です。これを正しく把握することです。

模試は毎回受けることが必要条件です。これは偏差値を知ることが目的ではありません。自分の実力の自己分析をするためです。学習の効果が実力に転化されているかを確認するためです。

例えば模試の前に算数の鶴亀算を一生懸命やった。模試でできればOKです。もし、できなければ学習が実力に転化されていない証拠です。理解度が不足している証明です。この場合は悔しいですがもう一度やりなおす必要があります。

実はここが重要です。自分では重点的にやったのに実力に結びつかない。お子様は悔しいはずですが、そこで考えます。どうして実力に変化できないのか。この過程がものすごく重要です。

この体験は早いうちに経験しておくといいです。5年生のときに体験できればいいでしょう。

自分がどうして理解できていないのか、あるいは理解が足りないのかいろいろ考えるわけです。これを体験してこうして覚えようとか、こうして考えるといいだろうとか知恵を出しはじめます。

こうして本物の力がついてくるのです。

すると『こういうふうにするといいな』ということに気がつきます。これが本番で力を発揮するのです。本番では塾のテキストより一段上のレベルか、すこしひねりがはいった問題が出ます。

基礎力に加えて応用力が要求されます。

自分でもがいて身につけた解法は真の実力になるはずですが。だから模試の結果に一喜一憂せずそこから学んで欲しいのです。

これが模試の活用方法です。

6年生の夏休み前で塾の受験範囲の学習は終わります。夏休みはこれまでの総復習と、入試問題のさわりをやるようなプログラムです。ここまでは塾のプログラムを基本にして学習すればいいでしょう。

夏休みは時間がありそうですが終わってみると意外に早く時間は過ぎていきます。多くのご家庭では夏休みに遅れを取り返そうとします。しかし、それほど偏差値は伸びません。

偏差値が伸びる子供は限られます。なぜならば多くの子供が学習時間を上げてきますから、あなたのお子様も伸びますが他のお子様の実力も伸びているのです。

だから夏休み後の模試では親が期待するほど偏差値が伸びないの

です。これが世間の常識の間違いの元です。夏休みに期待しすぎない・・・これがわれわれの回答です。期待しすぎると中学受験なんてもうやめようと真剣に思い始めるでしょう。

あるいは中学受験をきめたことを後悔するでしょう。でもそんな心配は無用です。夏休みを効果的に生かす方法をそっと教えましょう。

それは志望校に出題されそうでお子様が悪手な分野に集中して夏休みを過ごすことです。だからご家庭でやる志望校の過去問分析が重要になってくるのです。

ここからが合格への近道の真髓の部分です。

### ●志望校対策とは？

実践会の特徴の大きな内容がこの志望校対策です。そしてこの中核が過去問分析です。

過去問分析とは志望校の過去問の出題分野を解析して本番に出題されそうもない分野を捨てることです。さらに残った分野で出題の可

能性が高い分野をあぶりだすことです。

これが一部の学校を除いて塾では対応してくれません。一部の有名上位校には〇〇中学特別コースというようにその塾のえりすぐりの講師陣が出題傾向を分析して特別なコースを用意してくれます。

しかし、対象となる学校は偏差値 65 以上の有名校だけです。残念ですが多くの志望者が集まる学校には対応していません。

だからこそご家庭でやらなければならないのです。この過去問分析の詳しい方法はここでは書ききれません。その方法については実践会が編集している『志望校対策キット』か『志望校対策マニュアル』を参考にしてみてください。ご関心ある方は実践会のホームページにアクセスしてください。

さて、志望校の過去問分析ができれば、出題されそうでお子様が苦手な分野に集中して学習するのです。夏休みという貴重な時間を志望校対策に投入するのです。

そして出題されそうもない分野には見向きもしません。そうです、

捨てるが勝ちです。あれもこれもはできないと前に申しました。なぜならそんなに時間がないからです。

多くの親は偏差値が伸びないのは実力がないと考えがちです。それも一因ですが本質ではありません。実は最大の理由は時間が足りないからです。

もし、時間が無限ならば誰でも合格できるでしょう。実は時間が足りないから偏差値に差が出るのです。小学校でも優秀な子供が集まっています。一部を除いて実力なんて大差ありません。

短い時間でどれだけ処理して自分のものにしていけるかという時間勝負の世界なのです。暗記が得意な子供、じっくり考える子供いろいろいます。しかし、受験の日程が決まっている以上、本番で合格答案を書くコツを身につけた子供が合格をつかみます。

そのためには出題されそうで、お子様が苦手な分野をいかに効率よく得意分野に変えるが勝負の分かれ目になります。多少模試の偏差値が足りなくても本番で志望校の問題が解ければいいのです。

偏差値が高い子供が合格しやすいのは当たり前です。一部の上位層はそうです。しかし、多くの子供はそうではありません。合格可能性25～50%の子供が大半です。

そのような中で勝つ抜くためには寸分の漏れがない志望校対策が要求されます。これが合格への近道なのです。

### ●志望校対策を武器にするとこうなる

地方から東京の中学を目指されたお子様が2名おられました。東京からかなり離れた地方のご家庭でした。実践会への入会の理由は、志望校の情報がほとんど無いに等しいからでした。

どちらのご家庭も偶然同じ系統の塾に通われていましたが、東京の学校の情報は入手しにくかったようです。実践会のニュースレターやさくらメールを読んでそれを参考にして志望校対策を忠実に実行しました。

模試の偏差値は目標偏差値より5ポイント程度下回っていました。

入試直前まで志望校対策に集中していただくことを繰り返しお伝えしました。東京から離れた地方からの受験。これは実践会にとっても大きな試練でした。実践会のノウハウがほんものならば合格できるはず。

そして2月に決戦の火蓋はきられました。東京の四谷にある女子の御三家の一つであるF中学を受けたお子様。算数の計算問題で答えが2008.21となったのでニコリと微笑んだそうです。そうです。2008年の受験日は2008年2月1日でした。F中学はこういうユーモアのあるしかけをしてくれます。実践会ではF中学は普通ありえない5桁や6桁の正解を出してくるから注意して欲しいと伝えておきました。

これが現実になったのです。理科社会では多少取りこぼしがあったのですが国語と算数の快調さで見事に合格を獲得されました。

もう1人のお子様は、共学で偏差値は御三家並のW中学を受けられました。志望校対策を入念にやり、特に算数は時間との戦いになるので解法をしっかり叩き込んでおくようにパターン認識法をお勧めしました。平均で8割は得点できるように過去問をしっかりやっていた

できました。結果は見事合格でした。

情報量が少ない地方からの東京受験でしたがどちらのお子様も合格を掴んでいます。「写経式学習」「ラインマーカー法」「パターン認識学習」は短期間で実力を伸ばす原動力だったといえます。

成功例の共通点は志望校対策をしっかりとやったことです。合格後の報告メールではそのことが強調されていました。

この方法を使いこなせれば偏差値をさほど気にせず志望校を突破することが可能であろうと結ばれていました。どちらのご両親もこの方法を身につけたら多くのお子様ももっともっと幸せな中学受験を体験であろうという感想でした。

もう一つの別な成功例をご紹介します。これは女子の上位校を受けられた方です。第1志望校の受験チャンスは2回あります。

1月にお試し受験でまず1校を合格。ここまでは順調です。実はこの方も模試の最終結果は志望校の目標偏差値には及びませんでした。しかし、志望校の過去問を解いてみるとかなりいいので是非受

験したいということでした。相談スタッフは迷うことなく受験をお勧めしました。志望校の過去問対策は入念にやっていただきました。

2月に入り1回目の試験は不合格。そして偏差値ではレベルが高い2回目の試験にすべてを託しました。その結果見事合格でした。

やはりこの方の場合も志望校対策が合格の原動力だったと回想しています。

偏差値のギャップを埋めてくれる武器、それが志望校対策です。限られた時間を有効に使い、志望校に合格するためには志望校対策を効果的に活用することが合格への近道だとおわかりいただけたと思います。

ここまで冊子を読まれた感想はいかがですか。中学受験とはそのようなものか、そしてこれまで知っている世間の常識とはちょっと違うぞという感想をもたれたかもしれません。

世間の常識に頼っていたのでは世間と同じ結果になるでしょう。成功するためには一部の人しか知らない成功法則を上手く活用するこ

とが不可欠です。

志望校の過去問活用は大学受験でも合格者の共通した意見です。しかし、その活用法について多くは語られていません。『志望校の過去問を何度も繰り返し解きました』・・・・・・・・合格者の体験談には必ずこの言葉が必ずでてきます。

何度も繰り返しやるという情報だけなら多くの人は実行しているはずですが。過去問を何回もやる過程で本当に得られたノウハウは体験談には出てこないのです。

過去問を100%活用すれば偏差値の5~10ポイントのギャップは挽回できるという結果が出ています。100%といえませんが実に73%の方が第1志望もしくは第2志望の学校に合格しています。

第2志望の学校でも、6年生の春の偏差値からみると結果的に5~10ポイント上の学校に合格されています。

チャンスがあるならこのノウハウは是非活用していただきたいと

思います。このノウハウを獲得することであなたの受験に対する不安や負担が少しでも軽減されるならそれは大変有意義なことだと思います。ほとんどの方は志望校と今の実力にはギャップがあるはずです。しかし、そのギャップがあるからこそ受験する意義があるのだらうと思います。実力相応の学校を受けるならそこには挑戦というモチベーションは発生しません。

乗り越えた実感があるから、合格発表の日に感激して親子で手を取り合って喜べるのではないのでしょうか。

実践会では有名な難関校を受けることが挑戦と考えていません。偏差値40のお子様偏差値53の学校に受ければそれはもうすごいことだと思います。おそらく大学受験ではさらにすごいことが起きることを予感させてくれます。

そのお子様が本当に行きたい学校の目標偏差値が57とします。現実の偏差値が50しかないのであきらめようとしているならば、「ちょっと待った。その志望校えらびは間違っていないませんか」と言いたいです。

そしてそのために志望校対策という強力な武器があることをお伝えしたいのです。

### ●1人でも多くの子供に成功して欲しい

実践会では中学受験を突破することは1つの通過点くらいに考えています。だって人生80年もあるのです。たかが12年間の結果だけで一生が決まるわけではありません。むしろその過程で何を学んだかが重要です。

志望校対策をやっても使い方が今一步で中学受験では芽が出ないお子さまもいます。しかし、高校受験や大学受験でその活用方法をマスターして見事に成功していただければいいと思うのです。

むしろ大事なことは社会に出てどれだけ活躍できるかです。その頃はもう親の出番はそれほどないはずです。子供は自分の人生を自分で切り開いて歩まなくてはなりません。

そのときでもこのノウハウはきっと役に立つはずです。限られた時間でいかに結果を出していくか。これが受験勉強も仕事も同じことで

す。この成功法則を身につけたお子様たちには世界のどこに行っても通用する人間になる資格があると思うのです。ちょっと大袈裟だよとしかられるかもしれませんが。でもそれくらいの意気込みを持っています。

1人でも多くのお子様成功をして新しい会社を興したり、新商品を開発したり、資格を取得して貢献したり活躍することを期待したいと思います。

そうするとそのお子様は大人になり多くの貢献をしてくれるはず。お金持ちになればたくさん税金を納めます。立派な社会貢献です。会社を興せばそこに雇用が生まれます。これも社会貢献です。あるいは開発した新商品が環境問題を解決し、医師の資格を取得し多くの命を救ってくれることでしょう。

世の中はどちらかというと将来への不安や現状の不満でいっぱい。だから、成功体験をした子供たちが1人でも多く活躍してくれることで問題が解決されるだろうと思います。そのために1人でも多くの子供たちに幸せな受験を体験して欲しいのです。

## ●最後に

小冊子の中では詳しいノウハウまでは書ききれませんでした。しかし、合格するための考え方や計画の立て方はお分かりいただけだと思います。ここから先の詳しい内容についてさらに知りたい、あるいは興味があるという方は、実践会のホームページやメールマガジンをお読みいただければ幸いです。

ホームページの閲覧やメールマガジンは無料ですから一切費用はかかりません。あなたに何のリスクも発生しません。ホームページからは無料のレポートもダウンロードできます。

是非ご活用いただくことをお待ちしております。メールマガジンやブログへの登録はホームページからすぐにアクセスできます。検索エンジンに中学受験実践研究会と入力して検索するか下記のアドレスを入力してください。

実践会の URL : <http://www.info.juken1.net/>

実践会の mail : info@juken1.net

実践会のメルマガ : <http://www.mag2.com/m/0000188187.html>

お気軽にメールをください。実際に受験を体験した親である相談スタッフが待っています。塾の先生には自分の子供の中学受験の体験がない先生もたくさんいます。実践会の相談スタッフは全員が自分の子供の受験を体験しています。

だから受験生あるいは受験生の親の目線での助言ができるわけです。お金や時間を有効に使うためにはどうしたらいいかという問題にもきちんとお答えします。

多くの悩みや心配、不安を共有できるはずです。さあ、今からでもちょっとした工夫でできることがたくさんあることがあるはずですよ。是非実行に移してみてください。きっと今よりよくなることでしょう。きっといい情報が集まってくるでしょう。そしてこの冊子を使って是非いい仲間を作ってください。

必ず心強くなるはずですよ。そしてきっといい結果が舞い込んでくるでしょう。あなたにはきっとできるはずですよ。そしてお子様はきっと幸福な受験を体験することでしょう。

あなたとお子様の成功を心からお祈りしています。

中学受験実践研究会